

機関番号：12611

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20310154

研究課題名（和文） フェミニスト経済学の可能性—理論・思想・射程

研究課題名（英文）

The theory, the thought, and the range of Feminist Economics

研究代表者 足立 真理子 (ADACHI MARIKO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：10347479

研究成果の概要（和文）：当研究成果は、(1)経済学の新分野として成立したフェミニスト経済学が、金融、生産に加えて、経済分野としての再生産領域を可視化した、(2)社会的再生産に焦点をあて、利己的個人の合理性のみではない、コミットメントによる行動の、経済理論的根拠を明確化した、(3)フェミニスト経済学の最も基盤的な成果が、生活基本財の調達・備給・循環を第一義的目的合理性とする経済の概念化と、ケアリングのもつ相互依存性を経済に組み入れたこと、を理論的に検証したことである。

研究成果の概要（英文）： Results of the research ; (1) Feminist economics materialized as a new field of economics, the Sphere of Reproduction as economic categories was visualized.(2) It focused on social reproduction and the economic theory basis of the action by commitment which is not only a selfish individual's rationality was clarified.(3) There is the purposeful rationality to the circulation of the basic needs of life time, and the interdependency of caring has included in the economy. That is the alternative conceptualization of the economy by which the most foundational result of feminist economics. The above three points are having verified theoretically.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	2,300,000	690,000	2,990,000
総計	9,400,000	2,820,000	12,220,000

研究分野：経済学、国際経済、開発経済、ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー、開発

キーワード：合理的経済人仮説批判、フェミニスト経済学、非市場経済、グローバル化、再生産労働、ケアリング、ケア労働の国際移動、

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始時においては、未だ、日本においてフェミニスト経済学の認知度は低く、新古典派経済学派批判の経済学として、既に欧米では一定の位置を占めていることも理解されていなかった。したがって、フェミニスト経済学そのものを研究題材として扱うということは、行われていなかった。

(2) 新古典派経済学の学派としては、既に、ケインズ学派、ポスト・ケインズ学派、新・旧制度学派、ラディカルズ、マルクス経済学などが体系化されていたが、その中で、フェミニスト経済学が、批判理論として、如何なる独自性を持っているかについては、必ずしも明確な理論化がなされていなかった。

(3) しかしながら、フェミニスト経済学が提起してきた諸問題（家族の経済機能、性別分業）と、用語（無償労働、非市場経済、再生産など）については、体系的にとらえられてはいないが、単発的な使用は行われていた。そこで、それらの用語が生み出されてきた思想的土壌と、それらの用語の使用によって明らかになる現状分析の射程に関する理論研究は、極めて重要性が高く、また、喫緊の課題をなすものであった。

2. 研究の目的

本研究は、90年代初めに国際的に成立した、フェミニスト経済学についての包括的な研究をおこない、経済学の新たな一分野としてのフェミニスト経済学の特質を明らかにすることを目的とする。

従来の経済学においては、しばしば問題の所在そのものが不可視にされ、それゆえに経済問題として扱われてこなかった一連の問題群への接近と現実的対応可能性を見出すことを課題としている。フェミニスト経済学は、フェミニズムの社会的要請を背景として誕生し、ジェンダーに関わる問題群を経済学の学問的領域において検証することを目的とする、経済学の新分野の一つである。フェミニスト経済学の国際的研究活動中心は、1993年に設立された国際フェミニスト経済学会（International Association For Feminist Economics: IAFFE）であり、現在、ジェンダーと経済に関わる最も包括的な研究をおこなうとともに、国連をはじめとする国際機関および各国政府にたいして研究成果の提示を行っている。本研究は、経済学の新たな一分野として成立したフェミニスト経済学を、三つの領域に分けて分析し、フェミニスト経済学の理論的特質と現状分析の課題を明確にしたうえで、市場中心主義な合理的経済人によってのみ構成されるのではない、あらたな経済社会の代替理論の展開を構想する。

3. 研究の方法

研究方法は、フェミニスト経済学を以下の三つの領域に分け、フェミニスと経済学の20年間にわたる学問的範囲、現状分析の課題などから特質を把握し、理論化する。

また、現状分析に関しては、インタビュー調査およびアンケート調査を行う。

(1) 領域①：合理的経済人仮説批判

フェミニスト経済学の中心的課題は、主流派経済学に前提された合理的経済人仮説を批判し、社会的再生産を考慮する場合、利己

的個人の合理性のみではない、他者への共感やコミットメントにもとづいて行為・行動することの、社会的必然性を問題にしてきた。もし、当該経済社会が利己的・合理的経済人によってのみ構成されるとすれば、生命・人間・労働力の再生産および非労働力（退職した高齢者や、労働不能の人々など）の人間の尊厳と権利は、考慮されないばかりか、非合理性として遺棄される可能性をもつ。社会的再生産は市場交換にもとづかない非市場の諸要素や制度構築をとおして初めて可能となるのである。したがって、この領域における課題は、市場中心主義的な合理的経済人仮説にもとづく経済社会にあっては、社会的再生産に関わる問題群への適切な理解を欠くばかりか、社会的対応にも問題が生じることを検証する理論モデルの検討、および、そこから生成していると考えられる現実の課題の析出をおこなう。

(2) 領域②：マクロ経済のジェンダー分析

フェミニスト経済学は、①の領域に現われているように、ミクロ経済学批判、あるいはミクロレベルにおける経済問題について主に検討を重ねてきた。しかし、90年代半ばから、ミクロレベルのみではなく、経済のグローバル化の進展と新自由主義的政策のもとにおける、マクロレベルの諸問題、財政政策および社会政策のジェンダー分析や、雇用労働と国際移動の女性化、失業・貧困の新しい型、非市場労働投入の増大、ケアの国際移転などの現状分析をおこなうようになってきた。この領域では、フェミニスト経済学におけるマクロ経済分析の課題を明確化し、開発されている手法を整理・提示したうえで、ジェンダー・レジームを広義の制度設計に組み込む意義について検討する。そのために、現代のグローバル化の進展課程において、最重要課題となっている再生産領域のグローバル化の理論構築と焦点化されるべき問題群に関する現状分析をおこなう。

(3) 領域③：代替理論の構想

フェミニスト経済学は、従来の合理的経済人仮説に基づく経済学にたいして、一連の代替的な経済理論の提供をおこなってきた。その代表的な例が、人間生活の基本財の提供の学としてのフェミニスト経済学、あるいは価値規範を伴う目的合理性にもとづく社会制度設計の学としてのフェミニスト経済学などの提唱である。しかしながら、合理的経済人仮説への批判はフェミニスト経済学のみが行ってきたわけではない。（新）制度学

派、(ポスト)ケインズ派など、新古典派経済学に批判的な立場をとる経済学諸理論は、フェミニスト経済学との一定の問題意識を共有している。したがって、これらの隣接する経済諸理論との、問題構成と枠組みの相同性と差異を再検討し、金融・情報領域／生産領域／再生産領域という重層化された複数のグローバル化 (multiple globalizations) の時代における、代替理論の可能性を検討する。

4. 研究成果

(1) フェミニスト経済学の生成史：フェミニスト経済学は、1992年にワシントン D.C. で、最初の「フェミニスト経済学会議」が開催されたのを契機として、国際フェミニスト経済学会 (International Association For Feminist Economics, IAFE) が設立され、95年春に学会誌『Feminist Economics』を創刊し、今日までその活動を行っている。会員は欧米を中心として、ラテン・アメリカ、アジア、アフリカの各国、各地におよぶとともに、総会員数千名を擁し、2009年のボストン大会では共通論題、分科会など合わせて70以上のセッションをもつ国際学会へと発展してきた。フェミニスト経済学への生成過程で、最も重要な理論的課題となったのが、労働概念そのものの再考をめぐる議論、労働概念そのものを拡張することであった。

(2) フェミニスト経済学による労働概念の拡張の方法：労働概念の拡張、すなわち、市場を介さない労働を労働概念に包含するにあたって、次の3つの条件を提示した。第1は、機会費用の発生、第2は、社会的分業の内部に位置づけられる。第3は、第三者代替が可能である。この3つの条件が充足されるのであれば、その行為は労働概念として定義しうるものとし、(労働投入が繰り返される限りにおいては)、貨幣的評価を受けない不払い労働 unpaid labor でありながら、社会的必要を充足する労働と規定した (S. Himmelweit 1995)。ここで重要なことは、労働概念の拡張により、当事者自身が第三者とは代替不可能な自己享受である咀嚼という行為＝非労働に至るまでの一連の活動を、遡及的に労働概念に置換することが可能である点にある。また、同時に、ここでいう非労働とは、従来の労働／非労働＝余暇といった区分とは全く異なり、他者代替不可能性において享受可能である個体的享受として規定される。

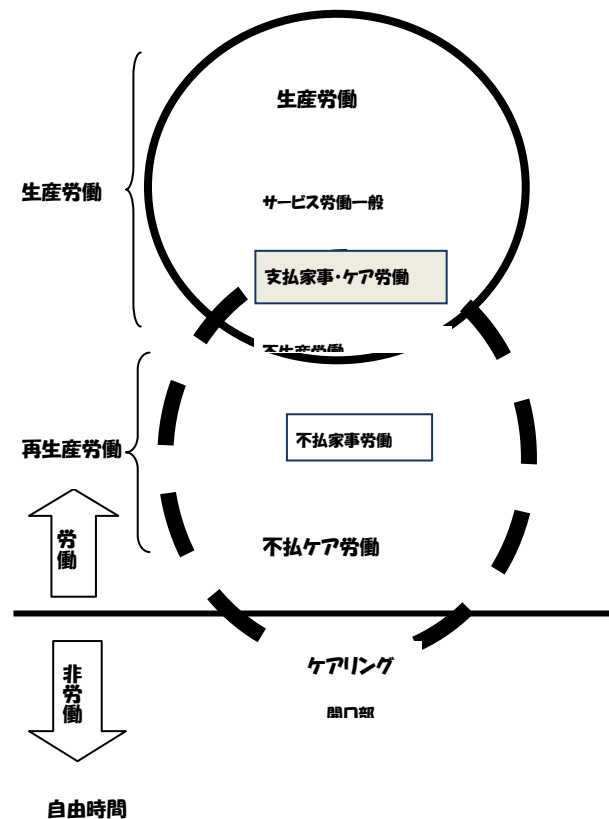
(3) ケア労働とケアリングの分節化

労働対象が人であるばかりではなく、労働対象との人的依存関係の分離不能性、つまり感情的関係依存的側面の密度において、ケア労働であるのかケア (リング) であるのかが分節化され、分節化する接触面にケア (リング) が非労働として措定される。

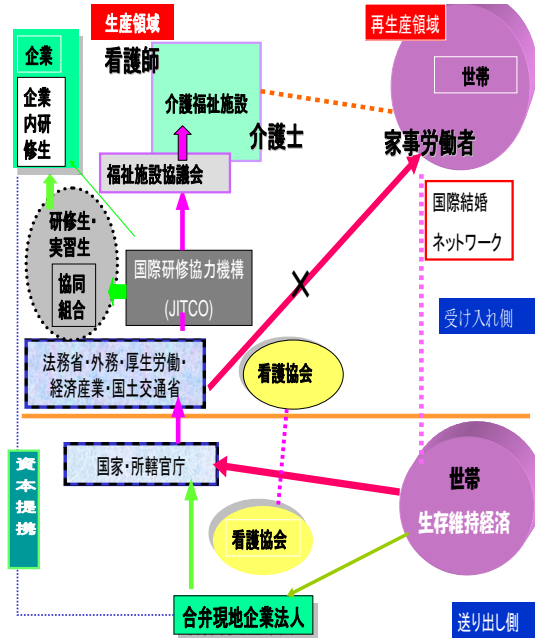
働であるのかケア (リング) であるのかが分節化され、分節化する接触面にケア (リング) が非労働として措定される。

(3) 再生産領域の可視化：生産的労働とは相対的に自律する、生命・労働力・人間の再生産をととした社会的再生産における、構造が再生産を継続するにあたってコスト化せざるをえない社会的必要労働の一分枝である再生産労働 (reproductive work) の領域の可視化である。この労働は、結果として如何なる社会的評価を受けるかどうかにかかわることなく投入が行われる必要があり、過剰である場合には費消されるが、一定の水準を欠くのであれば、社会的再生産構造それ自体の再生産不可能性が顕在化する。

これらを総合して図示するのであれば、以下ようになる。(図1)



(4) 現状分析：再生産領域のグローバル化とケアの国際移転：グローバリゼーションにおける三つの領域—金融・生産・再生産—



看護師・介護士の国際移動、すなわちケア労働の国際移転が進展しており、日本においても、導入が開始している。その様態を、再生産労働の国際分業としてとらえるのであれば、上記のような図示が可能となる。これは、再生産労働という概念で労働を拡張的に把握した場合に可能となる理解であり、再生産領域のグローバル化のとして概念化できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ① 足立真理子、「労働概念の拡張とその現代的帰結—フェミニスト経済学の成立をめぐる—」、経済理論学会編『季刊 経済理論』、査読有、47巻 2010、6-21
- ② 足立真理子、「フェミニスト経済学からみるグローバル経済と金融危機」、『女たちの21世紀』、査読無、58巻、2009、7-13
- ③ 足立真理子、「グローバルな源蓄と再生産の政治」、『現代思想』、査読無、136-10、2008、166-172
- ④ 足立真理子、フェミニズム・ジェンダー分析と経済学の方法、ジェンダー史学、査読無、4巻、2008、63-68
- ⑤ 足立真理子、「グローバル資本主義と不自由賃労働」、『POSSE』、査読無、2巻、2008、150-163

〔学会発表〕(計6件)

- ① 足立真理子、「全球金融危机之后的日本女性的劳动与生活」、第5回 アジア女性会議、2010年4月22日、中国・揚州
- ② 足立真理子、「全球金融危机之后的日本企業与女性的消費生活」、日中女性科学者会議、2010年9月20日、中国・北京 中国科学院
- ③ 足立真理子、「全球金融危机之后的日本女性的劳动、消費与生活」、北京大学中外女性研究センター講演会、2010年9月22日、中国・北京大学
- ④ 足立真理子 (共通論題座長)、「金融のグローバリズム化と貧困の女性化の現段階」、日本フェミニスト経済学会、2009年4月17日、法政大学、
- ⑤ 足立真理子 (労働部会コメンテーター)、「労働の非正規化と女性化をめぐる」、経済理論学会、2009年11月22日、東京大学経済学部
- ⑥ 足立真理子、「再生産領域のグローバル化とケアの国際移転 「介護施設経営と外国人介護労働者受け入れに関する意識調査」集計報告から」、社会政策学会、2008年5月27日、國學院大學

〔図書〕(計5件)

- ① 足立真理子、法政大学出版社、『政治経済学の政治哲学的復権』、2011、476
- ② 足立真理子、法律文化社、『グローバル文化学』、2011、198
- ③ 足立真理子、岩波書店、『新編 日本のフ

フェミニズム9 グローバリゼーション』、
2010、328

④足立真理子、岩波書店、『モダンガールと
植民地的近代-東アジアにおける帝国・資
本・ジェンダー』、2010、317

⑤足立真理子、岩波書店、『日本のフェミニ
ズム2 フェミニズム理論』、2009、325

6. 研究組織

(1)研究代表者

足立 真理子 (ADACHI MARIKO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学
研究科・教授

研究者番号：10347479

(2)連携研究者

伊藤 るり (ITO RURI)

一橋大学 大学院社会学研究科 教授

研究者番号：80104703

伊田 久美子 (IDA KUMIKO)

大阪府立大学 人間社会学部 教授

研究者番号：20326242

グレンダ ロバーツ (GLENDA ROBERTS)

早稲田大学 アジア太平洋研究科 教授

研究者番号：40308242

沖 公祐 (OKI KOSUKE)

香川大学 経済学部 准教授

研究者番号：60361581

佐藤 隆 (SATO TAKASHI)

大分大学 経済学部 准教授

研究者番号：50381025